

## 小学校の事例 中央区 山鼻南小学校

ごみ分別・資源物回収

ペットボトル収集

農園・リサイクル

身近なリサイクル

清掃活動

植樹・花壇

ビオトープ

パネルラ

児童会委員会

地域と協働

その他

ごみ分別・資源物回収

ペットボトル収集

農園・リサイクル

身近なリサイクル

清掃活動

植樹・花壇

ビオトープ

パネルラ

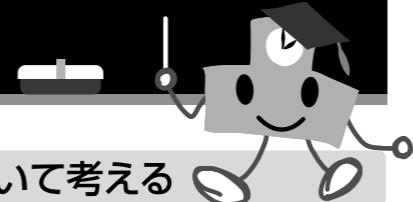
児童会委員会

地域と協働

その他

# リサイクルを知り活動に取り入れる。 地域や企業、家庭でも実践しつながるエコに。

企業の協力で本格的なりサイクルを学ぶ。  
長年つづけることで効果的な取組に。  
自分で見て実感することで意欲を増し、  
家庭での実践にも結びつく。



## 内容 リサイクル企業や工場の取組を見て 循環について考える

平成20年度に、廃棄物処理・リサイクル処理を行っている企業から呼びかけがあり、図工の時間などで使ったものなどをリサイクルに回せるということで取組み始めた。回収箱を借り、ペットボトルやプラスチックなど5種類程度に分別している。また、リサイクルポイントシステムを利用しておらず、貯まったポイントで環境に配慮された商品(再生紙のコピー用紙やトイレットペーパー)と交換している。

4年生は札幌市リサイクル団地にある、中沼プラスチック選別センター、5年生はリサイクル工場を見学した。実際のリサイクルの過程や、職員の方の仕事内容や苦労などを知ることで、取組の活性化につなげている。



本格的な分別を取り入れる

また、毎月25日には「にこにこの日」と題し、PTAの協力のもと、児童会が主体となって、新聞紙、古切手、ベルマーク、インクカートリッジ(メーカーごとに分別)を回収。児童会が前日に放送で回収への協力を呼びかけたり、スタンプカードを作成し、いっぱいになると賞状がもらえるなど、意欲的に取組めるような工夫を行っている。こちらは15年以上続いている、伝統的な取組である。



ペットボトル収集

## 効果 目で見て実感することで積極性に結びつく

自分の目で、分別の仕方やどのように処理しているのかなどを見ることによって、自分たちの取組の全貌を知ることができ、活動の意義を実感することができる。「なぜ分ける必要があるのか」を知ることで、さらに積極的に取組むことができるようになった。分別もきちんと行っており、企業の方からもお褒めの言葉をいただいた。また、子供たちが学んだことや感じたことを家族に教えることで、家庭での取組にも広がっている。



中庭に設置された収集袋

## 今後 次なる取組に意欲

本校には、太陽光パネルの設置が予定されているので、ソーラーシステムについて学ぶ出前授業や各教科の学習と関連づけて活用していきたい。また、エコライフやウォームビズなど、学習したことをもとに、自分たちが考えるエコについて提案(クラスで発表)するというような取組も検討している。

出前授業は子供たちにとって新鮮味があり、興味・関心をひきやすいが、その場限りにならないよう、いかに日々の生活の中に活かしていくのかを吟味する必要があると感じている。



「発泡」と「非発泡」に分別

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理とりサイクルを総合的に推進するモデル的な施設の集合体として、平成6年から平成8年にかけて札幌市が基盤造成を行い、処理施設は民間処理業者・当公社・札幌市の3事業主体がそれぞれ建設し、運営を行っています。

本校の4年生が見学した中沼プラスチック選別センターも、この中の一つで、その他にも廃油再生施設、生ごみリサイクルセンター、プラスチック油化施設、中沼雑がみ選別センター、資源選別センターなどがあります。

また、札幌市リサイクル団地に参入している企業の共同利用施設としてリサイクル資料館があり、研修や会議等に使用されていて、1階展示室には、団地内で操業している各施設の処理工程パネルやリサイクル品等を展示しており、リサイクル団地を見学される方への総合的な説明の場となっています。

